



平成 21 年 3 月 23 日

各 位

会 社 名：株式会社ユー・エス・ジェイ
(コード：2142 東証マザーズ)
代表者名：代表取締役社長 グレン ガンペル
問合せ先：ファイナンス・アドミニストレーション本部
経理・財務部長 竹中 昭敏
(TEL：06-6465-3022)

(訂正)「SGインベストメンツ株式会社による当社株券等に対する
公開買付けに関する賛同意見表明のお知らせ」の一部訂正について

平成 21 年 3 月 19 日に発表いたしました「SG インベストメンツ株式会社による当社株券等に対する公開買付けに関する賛同意見表明のお知らせ」(以下「本プレスリリース」といいます。)の記載内容に一部訂正がありましたので、下記のとおり、お知らせいたします。また、SG インベストメンツ株式会社より、本プレスリリースの添付資料である平成 21 年 3 月 19 日付け「株式会社ユー・エス・ジェイ株式等に対する公開買付けの開始に関するお知らせ」の記載内容に一部訂正がある旨の連絡を受けておりますので、SG インベストメンツ株式会社による本日付けのプレスリリースもあわせて添付いたします。

なお、訂正箇所は下線を付して表示しております。

記

・本プレスリリース 5 ページ
(訂正前)

(前略)

さらに、公開買付者は、日本政策投資銀行(当社の潜在株券等考慮後株式数の約 9.97%にあたる 222,222 株を所有)との間では、その保有する当社株式の全てについて、本公開買付けに応募する旨の契約を締結しております。また、公開買付者は、大阪市(潜在株券等考慮後株式数の約 8.98%にあたる 200,000 株を所有)の担当部局に対して本取引に関する説明を行った上で、その保有する当社株式の全てについて本公開買付けに応募することを依頼しています。なお、本日現在、ゴールドマン・サックス・グループは、その間接 100%子会社であるゴールドマン・サックス証券株式会社の職員であり、公開買付者の代表取締役であるアンクル サフを非常勤の社外取締役として当社に派遣しております。

(後略)

(訂正後)

(前略)

さらに、公開買付者は、日本政策投資銀行(当社の潜在株券等考慮後株式数の約 9.97%にあたる 222,222 株を所有)との間では、その保有する当社株式の全てについて、本公開買付けに応募する旨の契約を締結し

ております。また、公開買付者は、大阪市（潜在株券等考慮後株式数の約8.98%にあたる200,000株を所有）の担当部局に対して本取引に関する説明を行った上で、その保有する当社株式の全てについて本公開買付けに応募することを依頼しています。なお、本日現在、ゴールドマン・サックス・グループは、その100%間接子会社であるゴールドマン・サックス証券株式会社の職員であり、公開買付者の代表取締役であるアンクル サフを非常勤の社外取締役として当社に派遣しております。

（後略）

・本プレスリリース6ページ

（訂正前）

（注3）MBKは、MBKパートナーズの投資目的会社であります。MBKパートナーズ（グループの総称を指します。）は北アジア地域に特化した独立系のバイアウト・ファンドで、アジアにおけるバイアウト投資の2大市場である日本と韓国、それに将来的に最も有望な中国を加えた3市場に特化した地域密着型の投資戦略をとっております。

（後略）

（訂正後）

（注3）MBKは、MBKパートナーズ（グループの総称を指します。）の投資目的会社であります。MBKパートナーズは北アジア地域に特化した独立系のバイアウト・ファンドで、アジアにおけるバイアウト投資の2大市場である日本と韓国、それに将来的に最も有望な中国を加えた3市場に特化した地域密着型の投資戦略をとっております。

（後略）

・本プレスリリース10ページ

（訂正前）

（前略）

その上で、公開買付者は、ガンペル氏、アンクル サフ氏、加笠研一郎氏（注6）及び高橋一浩氏を除く当社の取締役らとの間で複数回にわたり行われた協議・交渉の結果や、当社による本公開買付けへの賛同の可否、本公開買付けの見通し、MBOの一環として行われた公開買付けの過去事例におけるプレミアム水準についての分析（金融・マーケット環境や各対象者の財務状況及び収益予想等を考慮した分析）、当社の普通株式の市場価格の推移とその間の金融・マーケット環境の変化等を踏まえ、既存株主に対しては、現在の金融・マーケット環境や当社のファンダメンタルズが反映された当社の普通株式の市場価格に適切なプレミアムを付した買付価格を提示することが相当であると判断し、平成21年3月19日に普通株式の買付価格を1株当たり50,000円とすることを決定いたしました。

（後略）

（訂正後）

（前略）

その上で、公開買付者は、ガンペル氏、アンクル サフ氏、加笠研一郎氏（注7）及び高橋一浩氏を除く当社の取締役らとの間で複数回にわたり行われた協議・交渉の結果や、当社による本公開買付けへの賛同の可否、本公開買付けの見通し、MBOの一環として行われた公開買付けの過去事例におけるプレミアム水準についての分析（金融・マーケット環境や各対象者の財務状況及び収益予想等を考慮した分析）、当社の普通株式の市場価格の推移とその間の金融・マーケット環境の変化等を踏まえ、既存株主に対しては、現在の金融・マーケット環境や当社のファンダメンタルズが反映された当社の普通株式の市場価格に適切なプレミアムを付した買付価格を提示することが相当であると判断し、平成21年3月19日に普通株式の買付価格を1株当たり50,000円とすることを決定いたしました。

（後略）

・本プレスリリース 11 ページ

(訂正前)

(注6) 加笠研一郎は、平成20年11月30日付で、当社の社外取締役を退任しております。

(訂正後)

(注7) 加笠研一郎は、平成20年11月30日付で、当社の社外取締役を退任しております。

・本プレスリリース 12 ページ

(訂正前)

(前略)

そして、当社の取締役会は、平成21年3月18日に、大和証券SMB Cから、当社普通株式に係る株式価値算定書を取得するとともに、一定の前提の下に本公開買付けにおける買付価格が財務的見地から当社株主にとって妥当である旨の意見書を取得しました(注7)。大和証券SMB Cは、当社の株式価値を算定するに際して、当社が提出した事業計画(注8)等に基づき、当社が継続企業であるとの前提の下、多面的に評価することが適切であると考え、DCF法及び市場株価法の各手法を用いて当社の株式価値の算定を行いました。

(後略)

(訂正後)

(前略)

そして、当社の取締役会は、平成21年3月18日に、大和証券SMB Cから、当社普通株式に係る株式価値算定書を取得するとともに、一定の前提の下に本公開買付けにおける買付価格が財務的見地から当社株主にとって妥当である旨の意見書を取得しました(注8)。大和証券SMB Cは、当社の株式価値を算定するに際して、当社が提出した事業計画(注9)等に基づき、当社が継続企業であるとの前提の下、多面的に評価することが適切であると考え、DCF法及び市場株価法の各手法を用いて当社の株式価値の算定を行いました。

(後略)

・本プレスリリース 12 ページ

(訂正前)

(注7) 大和証券SMB Cは、上記の株式価値算定書及び意見書を作成するにあたり、①当社が提供した事業計画の財務数値その他の情報の正確性及び十分性、②事業計画が将来の財務業績に関する当社取締役会の最善の予測及び判断に基づいて合理的に、かつ、適正な手続に従って作成されたこと、③事業計画記載の収益目標数値等が各年毎に計画通り実現すること等を前提としており、その内容等に関する独自の検証は一切行っておりません。株式価値算定書及び意見書は、当社取締役会が公開買付者による本公開買付けの提案を検討するための参考資料とする目的に限定して作成されており、大和証券SMB Cとして、当社株主及び本新株予約権の保有者に対し本公開買付けに応募すること又は本取引に関連する何らかの議決権の行使の推奨を行うものではありません。なお、大和証券SMB Cは、財務アドバイザーとしての当社に対する役務提供に関し、本公開買付けの成立を条件とする手数料の受領を含む内容のアドバイザー業務契約を当社との間で締結しております。

(注8) 当社が平成21年1月13日に取締役会で承認し、大和証券SMB Cによる当社の株式価値算定にあたり当社のスタンドアローン・ベースでの将来の事業計画として大和証券SMB Cへ提出をした中期経営計画(3ヵ年計画)は、初年度(平成22年3月期)における売上が697億円、EB

I T D Aが202億円、営業利益が100億円、経常利益が93億円であり、2年目（平成23年3月期）における売上高が704億円、E B I T D Aが205億円、営業利益が114億円、経常利益が101億円であり、3年目（平成24年3月期）における売上高が719億円、E B I T D Aが209億円、営業利益が118億円、経常利益が107億円となっております。なお、当社は、平成21年1月30日に東京証券取引所において、「平成21年3月期 第3四半期決算短信（非連結）」を公表し、その中で平成20年10月30日に発表した平成21年3月期（平成20年4月1日から平成21年3月31日）の業績予想を修正しておりますが、当該修正後の業績予想ベースでのE B I T D Aの予想数値は195億円であります。また、当社は平成21年3月11日には同中期経営計画の平成22年3月期とほぼ同等の水準での来年度（平成22年3月期）の単年度予算を策定し取締役会で承認しております。

（訂正後）

（注8） 大和証券SMB Cは、上記の株式価値算定書及び意見書を作成するにあたり、①当社が提供した事業計画の財務数値その他の情報の正確性及び十分性、②事業計画が将来の財務業績に関する当社取締役会の最善の予測及び判断に基づいて合理的に、かつ、適正な手続に従って作成されたこと、③事業計画記載の収益目標数値等が各年毎に計画通り実現すること等を前提としており、その内容等に関する独自の検証は一切行っておりません。株式価値算定書及び意見書は、当社取締役会が公開買付者による本公開買付けの提案を検討するための参考資料とする目的に限定して作成されており、大和証券SMB Cとして、当社株主及び本新株予約権の保有者に対し本公開買付けに応募すること又は本取引に関連する何らかの議決権の行使の推奨を行うものではありません。なお、大和証券SMB Cは、財務アドバイザーとしての当社に対する役務提供に関し、本公開買付けの成立を条件とする手数料の受領を含む内容のアドバイザー業務契約を当社との間で締結しております。

（注9） 当社が平成21年1月13日に取締役会で承認し、大和証券SMB Cによる当社の株式価値算定にあたり当社のスタンドアローン・ベースでの将来の事業計画として大和証券SMB Cへ提出をした中期経営計画（3ヵ年計画）は、初年度（平成22年3月期）における売上高が697億円、E B I T D Aが202億円、営業利益が100億円、経常利益が93億円であり、2年目（平成23年3月期）における売上高が704億円、E B I T D Aが205億円、営業利益が114億円、経常利益が101億円であり、3年目（平成24年3月期）における売上高が719億円、E B I T D Aが209億円、営業利益が118億円、経常利益が107億円となっております。なお、当社は、平成21年1月30日に東京証券取引所において、「平成21年3月期 第3四半期決算短信（非連結）」を公表し、その中で平成20年10月30日に発表した平成21年3月期（平成20年4月1日から平成21年3月31日）の業績予想を修正しておりますが、当該修正後の業績予想ベースでのE B I T D Aの予想数値は195億円であります。また、当社は平成21年3月11日には同中期経営計画の平成22年3月期とほぼ同等の水準での来年度（平成22年3月期）の単年度予算を策定し取締役会で承認しております。

・本プレスリリース14ページ

（訂正前）

（前略）

このように、公開買付者は、公開買付者に出資を予定しているもの以外の過半数の株主の賛同が得られない場合には本取引を行わないこととし、当社の株主の意思を重視しております。

（後略）

（訂正後）

（前略）

このように、公開買付者は、公開買付者に出資を予定しかつ所有する当社株券等の全てについて本公開買付けに応募することを予定している者及びその所有する当社株式の全てについて本公開買付けに応募する旨の契約を公開買付者と締結している日本政策投資銀行以外の過半数の株主の賛同が得られない場合には本取引を行わないこととし、当社の株主の意思を重視しております。

(後略)

・本プレスリリース17ページ

(訂正前)

(前略)

(注) ガンペル氏と当社との間の現行のマネジメントサービス契約の概要については、当社が平成20年6月26日に提出した有価証券報告書及び平成20年7月28日に提出したその有価証券報告書の訂正報告書の「経営上の重要な契約」欄をご参照下さい。

(後略)

(訂正後)

(前略)

(注) ガンペル氏と当社との間の現行のマネジメントサービス契約の概要については、当社が平成20年6月26日に提出した有価証券報告書及び平成20年7月28日に提出したその有価証券報告書の訂正報告書の「経営上の重要な契約等」欄をご参照下さい。

(後略)

以上

添付資料

(訂正) 株式会社ユー・エス・ジェイ株券等に対する公開買付けの開始に関するお知らせの一部訂正について